

■ 2025 年度 社会福祉法人なないろ 法人事業報告

1、《事業方針》

障害者の権利を保障し、地域でふつうの暮らしができる地域社会の実現を目指しながら、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されると共に、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する事を目的とする。

2、本年度の展開

1、新しい統合総括管理者の元、今まで築いてきた実績の上に、新たな職員管理・運営体制を構築し、利用者の支援体制を充実させます。

→業務執行代理者、総合統括管理者選任から1年が経過。また、法人職員選出理事についても、理事会・評議員会開催準備や法人主催諸行事等の主体的な実施を行なって貰っている。また、各事業所管理者を中心とした、利用者さんへのより充実した支援を進めることが出来た。

2、法人内組織体制を、世代交代と共に支援や組織の見直しを図っていきます。

→各事業所の管理者、サービス管理責任者、サービス提供責任者、主任の業務分担をはっきりし、役割や責任の所在の明確化に努めた。事業所が市内に点在しており、情報の共有や管理者等が各事業所に出向く等、顔を合わせての関係性を意識的に推進。

3、ホームページやSNSの活用を進め、新しい人材の確保や研修体制を構築する。柔軟に職員一人ひとりに合った働き方を模索する。

→ホームページ掲載の写真・文章変更を目指したが、具体的に実施できていない。SNSやオンデマンド研修等を通じた研修構築を考えたが、実施段階には至っていない。

4、利用者さん本人が、生活・活動の主人公になっているか等を改めて支援の内容を問い直していきます。

→個別支援目標作成時等、必ず本人と顔を合わせて面談をし、本人の気持を聞き取り、今不安に思っている事柄や将来の希望や思いを自分の言葉で話してもらうように様に努めた。

5、職員の次世代育成を図る。（育成を踏まえた法人内異動と責任の分担。）

→初任者研修の受講や介護福祉士、サビ管取得研修や積極的な研修受講体制を進めた。初任者研修修了者や介護福祉士資格取得者が増加した。しかし、相談支援初任者研修修了者の現任研修受講のための実績が確保できず、資格継続が出来ない状態が続い

ている。

6, 災害時に対しての災害時物品、食料等の確保とローテーションの準備・充実。

→防災物品や食料の継続購入を行実施。特に水・食料については、3日分の水・食料を各事業所で保管している。BCP委員会を設置し、各事業所作成BCPの見直しと、BCPに添った避難訓練の実施を計画したが、現在の所実施できていない。

[運営推進状況]について

1、 事業運営透明性の担保

年4回のニュースレターの発行は、継続発行（2013年より通算43号発刊）。年度末事業報告冊子の発刊については、編集準備等が煩雑なため、5年単位で発刊することに変更をいたしました。

2, 利用者、家族、職員等の合同企画の実施

昨年度は、秋に「なないろ祭り」開催を企画しましたが、総合福社会館の長期改修工事が始まり、会場確保が出来ず、開催が中止となってしまった。

3, 地域避難訓練参加や町内会行事への参加や、バザー等を通じて、地域と連携を撮りながら、地域のイベントニーズにも応じられる体制を築いていく

グループホームに対して、「地域連携推進会議」の開催が、地域の方の参加を含めて昨年度から義務化になる。各グループホームでも地域の町内会役員や民生員、推進員の方に参加をいただき、開催することが出来た。また、地域商店会の要請に応じてのイベントにも参加している。残念ながら、地域避難訓練等の参加はできていない。

2025 年度 「相談支援事業所なないろ」 事業報告

はじめに

なないろの相談支援は、2012 年 4 月 1 日にスタートし、14 年が経過しました。今年度から新規相談員 1 名が加わり、更に他事業所相談資格者が嘱託職員として参加。3 名体制での相談支援を行いました。利用対象者は、法人内利用者と法人外利用者が約 36 名・57 名の計 93 名となっています。

今年度は 3 名の方が亡くなったり、他市町村に移動したりで 3 名の方が退所され、新たに 6 名の方が増えました。

基幹相談支援センターが中心となつての協働モデルは、この 1 年半の中で参加事業所の入れ替わりが在りましたが、現在も 13 か所で継続しています。各月に 1 回 Zoom による運営会議と各相談事業所全体 28 か所の相談員が集まり、GSV（グループスーパービジョン）に参加しています。また、障害と暮らしの協議会ワーキングの一つである「行動に課題のある方の支援に係るワーキング」にも参加。強度行動障害の方の支援をしている職員を対象とした研修会を開催。

なないろ相談事業所相談担当者の世代交代を進め、相談支援利用者の引き継ぎ作業を少しずつ実施しています。

1、利用者支援

対象利用者： 93 名 男性：64 名 女性：29 名 （11 歳～ 66 歳）

- 1) 指定特定相談支援事業（サービス計画作成）（計画 46 件）（モニタリング 227 件）
- 2) 障害児相談支援（サービス計画作成）（計画 4 件）（モニタリング 5 件）
- 3) その他一般相談（来所相談、電話相談）（障害者 延べ 34 名）（障害児延べ 4 名）
- 4) 障害支援区分認定調査委託事業（0 件）（認定調査員不在。昨年 4 月以降からは未実施）

相談種類 相談内容	障害者			障害児		
	計画	モニタリング	一般 (電話含)	計画	モニタリング	一般 (電話含)
令和 7 年 4 月	2 名	15 名	2 名	0 名	1 名	0 名
令和 7 年 5 月	1 名	22 名	2 名	1 名	0 名	0 名
令和 7 年 6 月	5 名	20 名	3 名	0 名	1 名	1 名
令和 7 年 7 月	6 名	12 名	3 名	1 名	0 名	0 名
令和 7 年 8 月	4 名	29 名	2 名	0 名	0 名	0 名
令和 7 年 9 月	3 名	18 名	3 名	1 名	1 名	1 名
令和 7 年 10 月	4 名	18 名	2 名	0 名	0 名	0 名

令和 7 年 11 月	7 名	18 名	4 名	0	0 名	0 名
令和 7 年 12 月	2 名	24 名	5 名	1 名	1 名	0 名
令和 8 年 1 月	3 名	13 名	3 名	0 名	1 名	1 名
令和 8 年 2 月	5 名	23 名	4 名	0 名	0 名	0 名
令和 8 年 3 月	4 名	15 名	3 名	0	0	1 名
合計	46 名	227 名	34 名	4 名	5 名	4 名
	307 名			13 名		

支援の方向性（総括）

- ・利用者本人との面談の機会を大事にし、行動を共にする機会を大切にしたい。本人の言葉・エピソード、反応の様子の記録を行なった。
- ・「担当者会議」については、サービス計画作成時や 1 年おきのモニタリング報告書作成時を中心に開催を心がけた。計 54 回開催。「課題行動についての情報共有」、「後見人とのトラブル調整」、「グループホーム入居前後の連絡調整」、「グループホーム利用者の認知症に対する調整」、「ネットカフェ利用者の家族間トラブル調整」、「事業所での粗暴行為についての確認・対応」、「独居利用者の健康把握（睡眠時無呼吸症候群）と家事援助等の調整」「就労継続 A 型事業所でのトラブル調整」等の内容。

一般相談

- ・独居で自宅にて生活している方が 2 名。1 名はてんかん発作があり抗てんかん薬を服用。その方が睡眠時無呼吸症候群と診断、夜間 c-pup を装着して寝ようになり、仕事や電車等での居眠りが激減した。他の 1 名は生活保護利用、金銭管理で預貯金の引き下ろし等支援。60 歳後半となり、健康面での課題が少しずつ出てきている。
- ・20 年以上自宅からあまり外に出られない方が 2 名。本人やその家族を支える訪問介護や看護、訪問歯科、移動支援事業所の調整。親の支援力が低下してきた時の対応を少しずつ家族と話す機会を多くしていく。
- ・事業所・家庭等で粗暴行為が継続。卒後 2 か所の事業所に入所したが、それぞれの事業所で他害行為が発生、退所して自宅にて過ごしている。暫く余暇支援等のサービス多くして、家族との煮詰まり感を軽減し、本人の行き先を探していきたい。
- ・課題行動がある方の兄弟のお子さんが、自閉症との診断を受ける。多動で夜泣きが多く母親自身がうつ傾向になってしまう。（母親の対応で苦勞している姿を、小さい時から見ているため、余計これからの苦勞が絶えられないと悩みこんでしまう。）

サービス計画作成（モニタリング）

- ・2 名体制で、3 か月もしくは 6 か月に一度のモニタリングを実施。従来から比べると、多少余裕があるが、担当者の引継ぎを考慮すると、これ以上の対象者を増やすのは難

しい。

児童相談

- ・障害児の計画相談は、現在 4 名。うち 1 名が高等部 2 年生。重症心身障害児のため、卒後の進路先については、具体的な事業所との連絡を密にしたい。
れる生活介護や就労 B の事業所をあたった。
- ・1 名は、肺高血圧症の小学校 6 年生。来年度中学校普通級進学予定。小学校の時は、学校の障害に対する配慮があったが、中学ではほとんどないという。学校の先生に配慮しなければならない事柄の引継ぎを強く依頼。
- ・2 名は特別支援学校中等部 3 年生と小学部 6 年生。兄弟だが兄の方が障害が重い。弟はある程度障害についての理解が出来ているが、兄の行動を見て、中学校進学や大人になることの拒否感を強く抱いている。

認定調査委託事業

- ・従来、市からの委託で月 1～2 名ペースにて認定調査を実施していたが、稼働できる認定調査員資格者が不在となり、現在は活動を中止している。

2、事業所運営

職員：常勤職員 1 名。常勤兼務職員 1 名。他事業所嘱託職員 1 名。

- ・本年度からは実質 2 名体制で相談事業を実施。相談のニーズは高いが担当相談員の加齢化を考慮して、相談対象者の引き継ぎ作業を併せて実施。

会議

- ・担当者会議…サービス計画作成前や緊急ケースやライフステージ変更時で 54 回開催。
- ・相談事業所 GSV 参加…全体会 2 回を含め計 12 回参加。
- ・実務者運営会議…年 2 回実施参加。
- ・行動に課題のある方の支援に係るワーキング…年 4 回参加。

研修体制

- ・相談支援専門員初任者研修修了者は現在 7 名。5 年毎の現任研修は、相談事業所での実地的な活動が求められるが、既に資格失効者が 3 名となった。
- ・障害支援区分認定調査員研修修了者は 6 名。しかし、実際に訪問調査を行う時間があ職員が不在で実施できていない。

関係団体との連携

- ・施策検討連絡会への定期的な参加。

3、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

【サービス計画作成は、本人を交えての担当国会議開催を心がけます。本人と顔を合わせ、意見や気持ちを汲み取る姿勢を大切にします】

- ・本人を交えての担当国会議は、54 回中 28 回。十分本人の意見を取り込んで会議を推進した割合は半分強。内容によっては、関係者調整で終わってしまう会議も多い。

【法人後見等、後見制度利用の具体的な流れを意識した相談活動を勧めます。】

- ・利用者の加齢化と共に、親御さんの高齢化も少しずつ進んできている。具体的に親御さんに何かあった場合の、本人に対する金銭管理や生活支援をどのようにしていくのかを、具体的な事例を通して進めて行く必要がある利用者が、5～5 名ほどおられる。法人後見や第三者後見等の利用や、市長申立て等の調整も必要としている。

2025 年度【ほっと・ピア】事業報告

・職員体制

2025 年度ほっと・ピアは管理者 1 名（サービス提供責任者兼務）、非常勤職員 1 名、パート職員 1 名で年度末を迎えました。ヘルパーの配置においての難しさは変わらないのが現状です。

・ほっと・ピアの移動支援の基本方針について

法人の基本理念でもあるハンデがあっても住み慣れた地域で自分らしい生活を送っていくための支援を移動・居宅・家事・通院・余暇を通して必要とされるところにヘルパーの派遣をします。常に基本的には公共交通機関を利用することを念頭に置いて支援を続けていきます。しかしながら現状は、曜日によって支援者の人数が不足してしまい、車両送迎が増え日中活動やグループホームの職員の助けを仰がざるを得ない状況です。

また、朝と帰りに少しでも運動量をプラス出来たらと思う一方で利用者さんの加齢に伴い、安全面を考慮する場面も出てきていますので基本方針に基づきながらも個々に合わせていく支援をできるよう努めます。

・研修体制

- ・ 11 月 4 日（火）午前・午後に分けてドライバー研修を実施しました。

講師として篠田氏をお迎えし、公道における運転講習を実施。各ドライバーの運転を確認しました。

- ・ 居宅介護事業従事者研修

・事業所運営について

- ・ 月 1 回のピア会議については継続して実施しています。

福祉有償運送については安全運転管理者を置き、アルコールチェッカーを導入。日々の安全管理に努めています。

- ・ 居宅介護事業も継続して実施。主に、ホット、パレット・奏内での支援にあたっています。

・重点目標について

- ・ ミスや事故を無くす。
- ・ 研修体制の確認と再構築。
- ・ 事務手続きや書類作成の正確性の向上。
- ・ 報告・連絡・相談の徹底。

2025 年度 「トライ I」 事業報告

1、利用者支援

○利用者： 9 名 男性：6 名(グループホーム パレット利用 3 名) 女性：3 名 (グループホーム奏利用 1 名) 年齢 21 歳～ 43 歳

給与及び賞与

基本給：日給 150 円

賞与：夏季 3000 円(内 0 円積立金) 冬季 5000 円 年度末手当 2000 円

今年度も非常時の為に通帳に貯蓄していたものから円を降ろし冬季賞与とし補填しました。

今年度は賞与から旅行積立金は引きませんでした。

前年度実績 夏季(7 月) 3000 円) 冬季(12 月) 10000 円) 年度末手当 2000 円

※(月別売上報告は別紙)

○作業・日中活動

- ・ 作業面ではひとりひとり個別の目標や課題を取り組みながら穏やかな生活をおくれるようにして新たな経験を重ねていくことを意識しています。職員の体制が整ってきたことで個別の対応が活動や作業でもしやすくなり、個々のニーズに応えられるようになってきています。

○利用者会議

- ・ 個別支援計画の作成会議への参加も配慮しながら計画の説明も丁寧な実施を心がけました。言葉の無い方への説明は道具など実物を使っています。自分で選んでもらう場面も増やしています。

○販売

- ・ 今年度も県立福祉大の 8 月オープンキャンパス、11 月海風際、平成町のハウジングプラザ内での販売の機会を頂きました。以前から大変お世話になっているヘルスペットさんの分院である馬堀海岸にも置いて頂けるようになりました。
- ・ 納品先：市役所ともしびショップマリン/ヘルスペット本店、馬堀店 8/よこすか犬と猫の病院/ペットサロンプラウド小山/すがやどうぶつ病院/ひごどうぶつ病院/かとうどうぶつ

病院

○調理、絵画教室、運動プログラム

・調理実習

・毎週木曜日に調理実習を実施しています。毎週担当の職員が変わりますので職員の個性や趣味も出ながらリクエストにも答えつつ新しいメニューや食べたことのないものを初めてのものを提供し作れるように意識しています。自分達で食べる物を自分で作ることで食べられるものが増えると、新たなおいしいと思える事の経験と回数が小さな幸せが増やしていけると良いかと思います。年末にはクリスマス会としてピザを注文したり、今年度も2月には祝日に余暇プログラムとして米粉ケーキ作りを実施しました。

・運動プログラム

・夏の暑さや冬の寒さ、雨風により外には出にくくなる場面が多くなったことで天候に左右されない日常的に運動が出来るようにエアロバイクで運動する機会を設けています。職員の体制が整ってきていることで少人数での個別の対応が出来るようになっていきます。

・絵画教室

・毎月の絵画教室では絵を描く、毎回描き方を模索しながら作品づくりをしています。絵画教室で描いた作品をバッジという製品にすることも出来ました。個々どのような形にすれば興味を持って貰えるかなど模索しながら取り組んでいます。興味を持てなかった活動でも自主的に取り組んでくれる時間が長くなり、作品の色彩は豊かになっています。絵画講師：倉田先生 月/1回

○旅行・外部活動

・恒例のふれあい交流会、とうろう夜市、ふれあい運動会、ミカン狩り、新年にはカラオケ大会を実施しました。今まではトライⅠ全体での行動を意識していましたが、今年度外部活動は2グループに分けて湘南方面へ向かいドライブと食事を楽しみました。少人数で行うことで個々のニーズに近づけることが出来たと思います。

○健康管理

・看護師訪問：岩元看護師 1回/月。

医療懇談会：中央診療所、春田医師 1回/年。

健康診断：(まちの診療所つるがおか)今年度も診断日当日は思わぬか事態(津波注意報)もありましたが全員無事受ける事ができました。

・4月にウィルス性胃腸炎により職員3名利用者6名が感染した形になり閉所を余儀なくされました。

・6月には職員の不注意から利用者さんが骨折という大けがもありました。本人には痛みと不自由をご家族には心配をおかけしてしまいました。

○防災

・火災と地震の想定で年に三回(4月、10月、3月)、避難訓練を実施し、1日、15日の実施の際には伝言ダイヤルによる法人本部への報告をしています。緊急伝言ダイヤルはご家族の方も確認することが出来るようになっていきます。7月の地震による津波警報でヴェルクに避難することがありました。震源が遠くても警報が出ると電車やバスなど交通機関に長時間影響が出るがありました。いつか起こりうる災害を意識して備えていきます。送迎体制の整備が必要になると思われます。

2、事業所運営

職員体制：常勤 2名 非常勤 2名 パート 3名

・管理者とサービス管理責任者を併任していましたが次年度からはトライⅡ主任がサービス管理責任者となり、Ⅰ、Ⅱ共に主任を新たに配置して現場の活動などを担っていただくようにしています。トライⅡと兼務の男性のパート職員が1名増えています。

会議

・部署会議にて一週間の予定の確認と振り返りと気づきを職員間で共有出来るようにしています。毎日の振り返りの時間を設け一日の様子を記録しています。Zoomにて一か月に一度の日中活動会議を実施しています。利用者の様子や変化を他部署の職員とも共有することの出来るようにしています。利用者に課題が生じた時にはケース会議も柔軟に開催し、他部署とも様々な議題において柔軟な体制で会議を開催する体制を整えるようにしています。

○研修体制

・「はじまりはなんで」、「意思決定支援とは」、「強度行動障害のある方への支援と虐待防止」などの研修に参加しています。他には成年後見人の勉強会に参加させて頂き、横浜の恵和青年寮では短期集中支援の現場での取り組みを実習させて頂きました。

○BCP 業務継続計画に伴う策定

・今年度は実際に津波注意報が出た時に勤労福祉会館ヴェルクに避難をする形をとりました。日頃の訓練の成果があつてか避難に戸惑うような方はおられませんでした。警報後の交通機関の混乱があり、その時の対応が課題でもあるように思えました。

3、製菓・製品製造 課題と総括

・今年度は結果として総売り上げが 47896 円のマイナスとなっています。それに対して材料費はあまり変わっていません。材料費の高騰が要因のひとつとして考えられますが、ここまで大きな売り上げの減少は初めてのことで、2026 年度は全体的な生産体制、価格設定や販売方法の見直し、手づくり品の生産の充実などが必要になるかと思われます。

4、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

（１）一人一人があらゆる可能性にチャレンジしながら、製品作りに参加出来る作業内容の工夫と拡大を図って行きます。

・職員体制が整ったことで個別の対応や活動が出来るようになりました。ひとりひとり作業内容も必要な事柄や課題に向き合っています。

（２）集団の中で認められる事を通じて、自分が必要な存在である事が実感できる仲間通しの関係作りを進めます。

・本人たちが望んだ場所では無いのかもしれませんが、トライが自分たちの居場所であることを理解してもらっているように思えます。

（３）お客さんと地域の人々との関わりを通じて、利用者一人一人が、自分の仕事の重要性や喜びを感じられるような地域との関係作りを進めます。

・毎朝のように愛犬の朝ごはんを買いに来て頂く方もおられます。

（４）一人一人の願いに基づいて、利用者の中に存在する可能性が開花し、充実した人生が送れるよう個別支援計画を作成し、定期的な見直しを行いながら支援方針を確立し、職員集団全員で取り組んでいきます。

・本人が主体となる活動から幸せな生活に繋げていく、計画を心掛けます。ひとりひとりの願いが何かを察することから始めています必要な何かを気付いていけるような視点を大切にしています。

（５）利用者一人一人の意思を尊重し、自分達の職場として主体的にその運営に関われる条件作りを積極的に行っていきます。

・選択肢を増やすことで意思を尊重していき、自分の気持ちを伝える事の出来る場所として安心して過ごせる場所になると良いかと

（６）支援者の感性を養い、利用者の些細な行動や小さなつぶやき等、利用者からの発信を素早くキャッチし、利用者家族の気持ちに寄り添った必要な支援を素早く行い、利用者、家族から何でも相談してもらえる関係作りに努めます。

・日常生活での家族ではないからこそ気が付ける視点を大切にしながらしっかりした理解の上でご協力をさせていただけるようにしていきたいと考えています。

（７）障害福祉に関わる制度の動向に注意し、当事者である使用者、家族に対して、障害のある人の権利保障に関わる情報提供を行うと共に、地域で誇りを持って暮らせる社会作りの為に必要な行動と一緒に取り組んでいきます。

- ・障害福祉の制度の変化は常にありますので変化を意識しつつ普段の暮らしの中で気づきを忘れずに日常を過ごす社会の中で自分たちの居場所をつくっていきます。ご家庭の希望に沿った面談を設定し計画の説明とご協力をお願いしています。

5、自己決定に基づく将来に向けての支援（実践報告書用）

・人は誰でも生きていくなかで拘りやルーチン(日課、手順、習慣、所作、おまじない)は大事なもので無くすべきものでもありませんが、繰り返すことで思いが強くなり、大事にしていたルーチンが崩れても向き合わなければならない事で色々と気苦労は絶えないようです。しかしながら支援をする側も受ける側も経験をお互いに重ねることで新たな拘りや課題に対して戦々恐々とする事は少なくなりました。良かれと思った多すぎる言葉は逆に迷いや混乱を生むこともあります。自身の経験で知り得た人との関係性は、お互い真つすぐに関わる事を繰り返し重ねてきた結果であるようにも思えます。どんな課題も拘りもしっかりと向き合い、対峙することが、経験と成り、得たものは自己決定に基づく将来に選択の幅が広がる事になると思います。言葉ではない自己決定の判断には本人の気持ちが反映されていなかったり、不確かさが懸念されますが、本人の気持ちになぞらえ、本人の将来に関わる周りの人たちにも良い作用が生まれるように促していかなければなりません。例えば言葉での意思表示があったとしても迷いの中の言葉をそのまま本人の意志として受け止めて判断し自己決定としてしまうことがあるように思えます。誰であれ生きる上で選択しなければならない場面は必ずありますので、その選択を確かなものにする為には関わる人と人がお互いに伝える術を学んでいかなければなりません。独りの時間、自由も大切にしながら、人との関わりを増やすことで得られる考えや感じ方は選択肢を増やすことになり、確かな自己決定に繋げていくことになると考えています。誰であれ、学び獲得する権利を持ち、何かを得ることが目的になりがちですが、何かを得ることだけに固執せず、成すことを求め、何事はなくとも穏やかな日々があり、美味しいごはん、柔らかいお布団、ささやかでも笑える楽しみがあれば幸福のかたちは整っており、本人がそれに気がつくことが大切な事になるのだと思います。

ライ 藤井

2025 年度 「トライⅡ」 事業報告

1、利用者支援

利用者： 11 名

男性：7 名(グループホーム利用者 5 名)

女性：4 名(グループホーム利用者 2 名)

年齢：27 歳～66 歳

給与及び賞与

基本給：150 円／日

手当：所属年数による手当で：1 年目 0 円 2 年目 10 円／日 3 年目 20 円／日

4 年目 30 円／日 5 年目 40 円／日 6 年目以降 50 円／(上限)

賞与：夏季（7 月）：10000 円 冬季（12 月）：10000 円 春季：10000 円

前年度(2024 年度)実績 夏季 5000 円 冬季 10000 円 春季 10000 円

作業・日中活動

・クッキー作り・配達・クレープ生地ベースの受注生産

買物・シール貼り・外販売(トライⅡ前)・調理実習

絵画教室など

・プリント（クッキーのパッケージのシール貼りや字の練習・計算など）

・クリスマス会・忘年会・日帰り外出(小グループに分かれて、湘南方面、逗子方面、など)

・近隣にあるアートセンター、たこ焼きエイトを利用して地域との交流の機会を作りました。

販売

・店頭売り・ともしびショップ（市役所・県立大学内）・ジャカランダカフェ(歯科大学内の喫茶店)・長沢ベーカリー店頭・ほっとピア・ Keepsmile Yokosuka (ハウジングプラザ 今年 11 月のみ 2 日間イベント販売)・グループホームもえぎ・大津行政センターオープンデー、横須賀ブックミュージアム、うわまちフェスタ(今年初開催)に参加予定でしたが雨天のため中止になりました。

調理、絵画教室

・調理：調理代¥350（毎月の実施回数を調整しながら月に 1 回程度実施。

ピザ作り、グラタン、サンドイッチ、おでん、豚肉の生姜焼きなど

・絵画教室：講師（倉田氏）講師料¥4000(月 1 回実施)

個別の特性に合わせたテーマで、絵の具や色鉛筆などで描きました。クリスマスには工作で装飾品を作りました。

旅行・外部活動

- ・文化会館絵画展、文化会館ふれあい作品展の観覧
- ・みかん狩り(11月、希望者で参加)
- ・忘年会(今年はピザとデザートを手作りして食べました)
- ・3グループに分かれての日帰り旅行
(小グループに分かれて、三浦方面、逗子方面、横浜みなとみらいなど)

健康管理

- ・看護師訪問：1回／月 岩元看護師
血圧・体温・体重・脈拍計測・様子の観察、助言、相談
- ・健康診断：7月30日トライⅡで採決を実施、31日にまちの診療つるがおかにて身長、体重、血圧など、心電図、胸部レントゲンなどを実施しました。)
- ・医療懇談会：12月1日 春田医師(中央診療所)・法人各部署代表者参加

防災

- ・避難訓練3回／年(4月、10月、3月)
火災や震災を想定して実施。震災時の避難先は文化会館。
非常食の賞味期限の確認をしました。非常食は15名分1日3食3日分を揃えるために追加購入も必要な状況です。

その他

- ・赤い羽根共同募金も事業所での実施という形で参加させて頂きました。少額ではありますが12月末に社協担当者へ募金を収めています。

2、事業所運営

職員体制

- ・常勤2名
- ・非常勤1名(月と木にトライⅡに勤務)
パート職員5名(月・火・金1名、火・水・木1名、水1名)

会議

- ・月1回実施 16:00～17:30頃まで職員会議を行いました。
- ・振り返るだけでなく、最大30分～40分程度で、日々の懸案事項について(利用者さん

の様子から、作業内容、翌日の予定など）話し、支援に対しての共通認識や困難に感じていること、支援の方針などを話合いました。

それをメモしながら、参加出来なかった職員にも共有しています。

研修体制

- ・チームリーダーキャリアパス対応生涯研修課程(7月24日、25日西村)
- ・自閉症・行動障害について(9月29日 西村)

関係団体との連携

- ・横須賀の福祉を推める会
- ・下町作業所
- ・作業所連絡会
- ・きょうされん
- ・ショートステイ事業所（ピースカラー）
- ・移動支援事業所（湘南クリエイティブ、ピースケア、アシストワン、たけのこ会、ほっとピア）
- ・生活介護事業所ゆずりは（利用者1名兼用利用）
- ・生活介護事業所けいしんデイサービス(利用者1名体験利用付き添い)
- ・グループホーム郷
- ・グループホームあゆみの家(ポニー
- ・あまねグループホーム(こもれび)

3、製菓・製品製造 課題と総括

□クッキー(ハロウィンやクリスマスの限定クッキーを製作)

- ・売り上げには前年度と比較すると増えています。前年度以上の賞与も出すことができました。売上金を使って製品作りに使う道具(鉄板、クッキーの型、オーブンシートなど)を新しくしたり、数を増やしたりすることができ、製造効率を上げることができました。
- ・利用者さんの得意な面を活かすためにも、必要な補助や事前準備なども工夫しながら支援しました。昨年度から引き続き、生地作りの日と成型の日を分けることで準備を一日に集中させ職員の準備の負担を減らし、季節ごとのイベントを取り入れたり支援に向けられる時間を作ったりするようにしました。生地を冷凍していなかった種類のクッキーも、業務用の冷凍庫であれば品質を保ちつつ保存できることも確認しながら、生地の製造単位を増やすこともできました。これは利用者さんの作業スキルの向上があったことですし、職員の支援力も向上したと感じています。

また、販売方法も工夫しセット販売や季節商品を作り単価を上げたことも売り上げの上昇に影響したと考えています。

- ・豊島小学校や、三和保育園、横須賀学院など近隣の施設からも注文があり、販売経路が

より広がっている様に感じられます。その他にも、上町のカフェバー(圏外書房)にクッキーを置いていただくことも始めました。クッキーの味も好評でご来店して購入されたりリピートして下さっている方も増えているように感じられます。

4、今年度重点目標の（運営方針）課題と総括

トライ〈Ⅰ. Ⅱ〉運営方針（重要事項説明より）についての総括

- （１）健康に過ごせることや見通しのつかない状況の中で、利用者さんが少しでも安心や楽しいと感じられたり、やりがいを感じられる事業運営を心掛けたいです。

一人ひとりの得意な部分を活かすことに注目し、その中で必要とされている部分を支援するようにしています。できていない部分に職員が注目してしまう傾向を修正できるように、日々話し合いの中でお互いの視点や感覚の違いを確認しています。

通常は室内での活動が主体ではありますが、製品作り以外の時間も意識的に作り、季節を感じられるよう気候が良いときに屋外へ散歩などに出られる機会を少しずつ増やせたのではないかと思います。

- （２）集団の中で認められることを通じて、自分が必要な存在である事が実感できる仲間同士の関係作りを進めます。

1階から3階までのスペースを使い、仲間同士で過ごす時間や個別の空間や時間を必要な時に提供できるように支援しました。個別の趣味の音楽や話題などがお互いに影響しあい、趣味が広がっていることが印象的です。職員を介さないコミュニケーションが増えてきていることにも注目しています。それぞれの特性に配慮しながら、個別のペース、集団での流れを考えながら適切な距離感を探りながら対応をしています。

- （２）お客さんや地域の人々との関わりを通して、利用者一人一人が、自分の仕事の重要性や喜びを感じられるような地域との関係作りを進めます。

お店での売り上げは前年度よりも増えています。市役所のマリンやイベント販売で商品を認知して頂きご来店されるお客様がおられることや、セット販売で単価が上がっていることが売り上げにつながっていると思われます。お店で買い物をしながら「おいしいからまた買いに来ました」との言葉を頂いたり、美味しいから贈り物にするなどの言葉も多くありました。

利用者さんへもその言葉を伝えたりお店で直接聞くことができたりしていることもあります。お店でお客様が来られた時には、以前よりもハッキリと挨拶ができる

ことが多くなってきました。

地域での関りとしては、文化会館での6月に「よこすかブックミュージアム」の販売に近隣の商店と一緒に販売を行いました。7月は「灯ろう夜市」では近隣のお店から招待を受けて利用者さん対象に縁日への招待をしていただきました。トライ2のパートスタッフが営業している上町のカフェにも行ってカフェの雰囲気を感じたり、飲み物を味わったりして過ごすこともできました。11月の大津行政センターのオープンデー、ハウジングプラザ、福祉カフェなどの販売は土日の開催になることもあり、利用者さんの参加が難しいため職員だけで参加していますが、利用者さんが作った製品を地域に広めることで、製品や事業所の認知度が上がることに繋がっていることと思います。

モアーズ1階のクレープ屋さんへの生地ベースの製造と納品、県立大学、ジャカランダカフェ（歯科大内）市役所マリンへの納品の機会にも地域との繋がりを感じられる場面になっています。

（４）一人一人のねがいに基づいて、利用者の中に存在する可能性が開花し、充実した人生が送れるよう個別支援計画を作成し、定期的な見直しを行いながら支援方針を確立し、職員集団全員で取り組んでいきます。

それぞれの特性に合った仕事内容を導入し、得意なことを活かせるようクッキー作りの中でも役割を分担しています。例えば、数えるのが得意、細かい作業が得意、力を使った作業が得意、仲間の手助けをする事が得意、同じことを繰り返すことが得意、強みを活かした活動内容になるよう、職員のフォローも含めてお互いに補い合いながらクッキーの製造作業が成立するようにミーティングでも支援内容を振り返り話し合いながら工夫して支援しました。

（５）利用者一人一人の意思を尊重し、自分たちの職場として主体的にその運営に関われる条件づくりを積極的に行っていきます。

一人一人とのやり取りの中で言葉や行動などを見極め、意思を汲み取りながら活動内容や必要な対応やフォローを考えています。場面に寄ってはご本人の意思には添い難い状況もあります。しかしながら、そのような状況を利用者さんが一生懸命に受け入れて行動されている部分もあります。職員側としてはそれぞれの思いにも理解を持ちながら、その場に応じた行動を求めていくことも、それぞれの柔軟性、融通を利かせられることにも少しずつ経験として積み重ねられていると思います。

（６）支援者の感性を養い、利用者の些細な行動や小さなつぶやき等、利用者からの発信を素早くキャッチし、利用者家族の気持ちに寄り添った必要な支援を素早く行い、利用者、家族から何でも相談してもらえ関係づくりに努めます。

年 2 回の面談や日々のやり取りを通して、支援の状況を説明させて頂いたりご家庭での様子を伺ったりさせて頂きました。トライⅡでの様子を観察している中で支援者の視点が部分的なものではないものだと気づかされることもありました。担当者会議などで他事業所の支援者と情報や意見の交換をしたりするなかで、総合的な視点を持ちながら支援する連携の難しさも感じさせられることもありました。

(7) 障害福祉に関わる制度の動向に注意し、当事者である利用者、家族に対して、障害のある人の権利保障に関わる情報提供を行うと共に、地域で誇りを持って暮らせる社会作りのために必要な行動をいっしょに取り組んでいきます。

必要に応じて市内の社会資源(グループホームや移動支援など)の情報提供を行うこともありましたが、少しずつでも情報の幅や専門性の高い情報を提供できるよう努めていければと思います。

2025 年度 「長沢ベーカリー」 事業報告

1、利用者支援

利用者： 17 名

男性：10 名 女性：7 名

作業・日中活動

・パン製造については 1 年間を通し安定した売り上げを継続することができた。地域の皆さんに認知されたことに加え、利用者さんそれぞれの力がアップし、商品の質が安定していることが大きい。

・利用者さんも年齢を重ね、季節の変わり目などに体調を崩すことが増えてきた。また多くの方が花粉症に悩まされており、3 月はコンディションを維持するのが難しくなってきたいる方も多い。

販売

・例年売り上げが落ちる夏も今年度は安定をしていた。店舗での売り上げは平均 1 万 3 千円前後。今では 2 万円を超えることも珍しくなくなってきた。

・外部販売では既存の販売先に加え、新たに平成デイサービスセンターに月に 1 回訪問販売を行い、バザーとしては萌木まつり、長沢まつりに参加。どちらも多くの方にパンを手にとってもらうことができた。

旅行・外部活動

・日帰り旅行では福祉バスを使わず、グループに分かれての横浜旅行を実施。移動手段も公共機関（電車、バス）を使い、それぞれのペースで過ごす。旅行の形は好評で、大型バスの方が好きというメンバーもいるので今後は年度ごとの交代にするなどして企画をしていきたい。

健康管理

・全体的に体重の増加が続いている。猛暑などの影響で数年前に比べて外出をする機会が大きく減少している。それは週末も同様で、今までは家族が対応して運動などをしていたご家庭も暑さや家族の高齢化などから室内に残るようにあり、運動不足が課題となっている。

防災

・7月の大津波警報で高台の公園へと避難。訓練の成果もあり避難行動はスムーズだったが、暑さや水分の確保、トイレの問題（避難先がない）など課題は多く見受けられた。新年度の訓練ではこうした課題を克服できるよう様々なケースを想定し行っていく。

2、事業所運営

職員体制

・常勤4名、パート職員9名。
・スタッフの入れ替わりなどあったが、新しく加わったスタッフが十分に力を発揮してくれている。

会議

・毎日の振り返りミーティングを継続、支援のことを中心に話し合いを行っている。

3、製菓・製品製造 課題と総括

・店舗での売り上げは安定していて、例年売り上げが落ちる夏場（7月～9月）においてもさほど売り上げは下がりず、1年を通して多くのお客さんが来ていただいた。また近隣の施設である萌木、クオレのイベント販売に加え、北下浦小学校からの依頼で卒業式の来賓向けのランチボックスを作成。地域との交流の機会が年々と増えている。
・材料費の高騰から7月に若干の値上げを行ったが、お客さんの数には大きな影響はなし。

4、今年度重点目標（運営方針） 課題と総括

【利用者支援】

・昨年度は実習生が多く、支援学校に加え近隣の中学校から2名の職場体験も受け入れた。実習生の中から1名が令和8年度より新メンバーとなる。
・17名となったメンバーが1年を通して全員揃うことは少なく、体調不良であったり、通院だったり、津波の避難に対する不安から来所出来なくなってしまうなど様々な事情でお休みが続いた。メンバーの皆さんが負担にならないよう個々の様子を観察しながら休息の日も設けているが、年齢層も上がって行くなかで作業内容なども見直す時期が近付いているのかもしれないと考えている。

【店舗運営】

- ・用意したパンは毎日 8～9 割は販売できていて、完売の日も珍しくない。昨年度は初めて年度末手当を支給することもできた。
- ・外部販売の機会を通し、地域や近隣施設との交流の機会が増え、今後様々な形で協力し合うえることを理想としている。

5、自己決定に基づく将来に向けての支援

- ・個別支援計画ではアセスメントや本人説明などを丁寧に取り組んだ。その中で“やってみたいこと”を聞き取り作業の中に組み込んでいる。
- ・1名のメンバーが短期入所の利用を開始した。順調に利用ができていて、事業所内でもその話題が良く出るので、他のメンバーも「泊まってみたい」と話すなど良い相乗効果になっている。

2025 年度 ほっと・ホット 事業報告

はじめに

昨年度途中で職員体制が変わり、ご利用者の皆様始め、ご家族の皆様にもご不安な思いや、ご迷惑をおかけしたことを、大変申し訳なく思っております。
スタッフ一同協力して日々の支援に取り組んでいきたいと思っております。

利用者支援

利用者：男性 4 名 女性：2 名（47 歳～53 歳）

過ごし方

生活スタイルに大きな変化はありませんが、平日は帰宅後早めに入浴をして、その後ゆっくり思い思いに過ごして頂く流れが定着しています。休日など思うような外出ができていないかもしれませんが、近くのコンビニなどで昼食を買いに散歩をしたり、ドライブをするなどしています。

健康管理

7 月に救急搬送、手術、入院になった利用者の方がおられ、入院中は服薬や、水分補給、食事が上手くいかないこともありましたが、試行錯誤を繰り返し、乗り越えることができました。3 月には利用者全員が予防接種をしていたインフルエンザに 1 名が罹患しました。罹患された方は 1 回のみ服用のインフルエンザ治療薬が良く効いたのか復帰も早く、幸いほかの方に感染することはありませんでした。

その他、大きく体調を崩される利用者さんはいませんでした。それぞれ通院の機会は増えており、グループホームの職員が同行して対応をしています。また車椅子の利用者さんに関しては、訪問マッサージのサービスを週に 1 回ホーム内で利用しています。昨今は寒暖差も激しく、体調を崩しがちな傾向も見られます。また、加齢にともなう体調の変化にも気付けるよう心掛けていきます。

防災

防災訓練を年に 3 回実施しています。地震などのニュースでも不安を感じる利用者さん多いので、備蓄品なども含め、様々な対応を検討しないといけないと考えています。

将来に向けた取り組み

週末の開所は月に 2～3 回となっており宿泊の利用者は 3～4 名程度となっています。金曜

日も含めてグループホームに宿泊するメンバーが増えており、それぞれ良い表情で過ごされています。365日の開所に向けてスタッフの育成・確保は急務になってきています。

旅行・イベント・余暇活動など

祝日などの対応は職員とドライブに出かけたり、近くを散歩したりと、ごく小範囲での活動となっています。ヘルパーさんやご家族と行きたい場所へ出かけ、気持ちをリフレッシュする時間を作ってもらっています。

事業所運営

職員

常勤2名・ 支援員パート13名（うち学生4名、調理員2名）

会議

月に1回ほっとホットスタッフ会議を実施。

（スタッフ会議に参加できなかった方にも会議録を見てもらい情報を共有）

研修体制

- ・虐待防止研修/年1回以上
- ・身体拘束適正化研修/年1回以上
- ・居宅介護従事者研修
- ・その他随時

夜間を含む人員体制

県立保健福祉大学から4名の学生が宿直アルバイトとして加わっていますが、実習での休みも多くなり、今年度で3名の方が卒業されます。加えて、長年支えて下さっているパート職員が徐々に定年を迎え、また定年間近となっていることや、週末や朝に対応できるスタッフが少ないことなど、人材の育成と確保が現状の課題です。

地域生活

- ・大津ボランティアセンターの皆さんに支えていただき、不定期に庭の草刈りと毎日たくさんの洗濯たたみを行って頂いております。
- ・地域連携推進会議の実施。年1回以上（9/24実施）

今年度重点目標（運営方針）課題と総括

- ・「いつも通りの暮らしを支える」→1年間、概ね皆さん健康、安全に過ごせたのではないで
しょうか。
- ・「スタッフの定着」→来年度も引き続き目標となります。

来年度重点目標課題↓

1・利用者さんの健康と安全への取り組み。

- ☐ 気候の変化や、感染症、加齢に伴う体調の変化に敏感に対応する。
- ☐ 日々の安全はもとより、緊急時や災害時の対応について確認する。

2・きめ細やかな支援のための情報共有

- ☐ 日々の細かな情報をスタッフ間で共有し、きめ細かい支援の実施を目指す

自己決定に基づく支援

・個々の特性を理解し、各々の過ごし方を大切にすることに向けて、取り組みを継続することが出来たのではないのでしょうか。

来年度課題↓

- ・自己決定をするための「‘意思決定’を支援する」ところから再度学びを深めていく。

2025 年度 にじいろのパレット 事業報告

はじめに

2025 年度は、皆さん大きな事故や病気もなく穏やかに楽しく過ごせました。グループホームで当たり前のように楽しく穏やかに過ごせることが本当にありがたく心から感謝しました。変わりなく過ごせる毎日の中で、自分の時間を楽しめることが増えています。パレットが皆さんの居場所であり、くつろぎの空間であってほしいと考えています。

利用者さん、ご家族、スタッフ共に健康で穏やかに過ごすことが出来た 1 年であったと感じます。

1、利用者支援

利用者： 男性：4 名 33～44 歳

過ごし方

居室で過ごすメンバーが多い中、スタッフと一緒に TV を観たり、一日の出来事などをリビングで会話を楽しむことも多いです。会話の中から、コミュニケーションが生まれるのでスタッフも楽しみにしています。新しい職員にも笑顔を見せるなどグループホームでの暮らしを続けた中で色々と成長した部分もあるのではないかと感じます。

健康管理

2025 年 3 月より、月～木は 2 名の調理員さんが食事を作ってくれています。

体の源であり、生きていく上での活力である食事については調理員をはじめスタッフと MTG を持っています。管理栄養士の献立の元、組み立てていますが、毎週金曜日の夕飯は「ヨシケイ」から食事の提供を受けています。量については、少々足りないようですが、スタッフが野菜やスープ、タンパク質を考え 1 品増やして対応しています。年齢を重ねるにつれ生活習慣病の予防・改善も考えていく必要性もあります。

研修体制

主任職員が中堅職員部会に出席し、他施設や関係機関との情報交換を行うことで、他機関の状況や様々な支援方法を学び、職員の資質向上と日々の支援をより深いものとしようと考えています。

夜間を含む人員体制

長年勤務してくださっているパート職員さんと主任職員とで行っています。

安心と信頼が有り、とっさの判断にも大変心強いものがあります。

法人内のグループホームが1つになり行ってこられたのも大きな事であると思います。

地域生活

地域連携推進会議に参加し、地域の方々の意見を聞くことで日々の支援に活かし、地域との交流を実践していきます。

3、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

利用者さんが自分らしく、落ち着いて過ごせるグループホームであるためには、まず、支援の整理、環境状況の整備、スタッフの心・精神の安定、健康を心掛けました。利用者さんの笑顔や、スタッフに安心して話をできる環境であることに安堵しています。それぞれの楽しみ方や、スタッフとメンバー間の信頼関係も保てる空間であるように引き続き支援していきます。

4、自己決定に基づく将来に向けての支援

大きな事故もなく、日々の宿泊に関しては4名全てのメンバーが落ち着いて過ごせています。4月より第2・4土曜日を開所していますが、皆さん混乱等なく穏やかに過ごせています。同時にご自宅で過ごしたいという利用者さんやご家族の想いも大切にしています。徐々にではありますが、ご自分の意志でパレットでの暮らしを選択できるよう、安心、安全な暮らしを提供していきたいと考えています。

2025 年度 にじいろの奏 事業報告

はじめに

2025 年度は、メンバーさんの 1 人が体調を崩され、グループホームでの生活が難しくなってしまった為、9 月からご自宅での生活となり、12 月に退居されることになりました。半年間メンバーさん 3 名での生活が続き、少し寂しい奏でした。それでも他のメンバーさんは、大きな怪我や病気も無く、元気に生活出来た事を良かったと思いい、引き続き心と身体の支援に取り組み、スタッフ一同、皆様を全力でサポートして参ります。

1、利用者支援

利用者： 女性：4 名 9 月より 3 名 30 歳～51 歳

過ごし方

それぞれ居室、リビングと好みに合わせた生活をされています。本来は、感染などの影響で蜜を避ける為でしたが、今もライフスタイルとして、それぞれの希望を尊重した過ごし方を優先しています。安全対策として手洗い、消毒、マスクなどは、継続して行っていくよう心掛けています。

健康管理

検温を含む体調の観察は、継続して行っています。メンバーの体重の増加もあり食事のメニューと摂取量にも気を付け、引き続き取り組んでいます。日々の健康管理についても、月に一度の看護師の訪問の際に相談をさせていただき、変化があればご家庭にも報告をし、気になる部分については、ご家庭と連絡を取り合い一緒に取り組んでいます。

防災

パレット、奏合同で避難訓練を実施しています。メンバー、スタッフが、屋外に出て近隣までの避難としました。最近も地方での地震が頻繁に発生しています。実際に避難する時間、持ち物などを考えるとスムーズにはいかないことを考慮し、色々な場面を考えた訓練も行っていこうと考えています。防災グッズの点検なども計画を立て、賞味期限などの確認、補充も行っています。

将来に向けた取り組み

日々の支援に力を注いでいます。体制的には、奏・パレット・ほっと、グループホー

ム一丸となってホローし合いながら安定した支援を目指しています。その為には、突然のアクシデント、スタッフの補充などにも即座に対応できるよう、継続していきます。

・旅行・イベント・余暇活動など

引き続き、旅行、イベントなどの参加、などは一切行えませんでした。余暇での外出は、近隣を散策しながら好きなおやつを買って楽しみました。室内で過ごす環境の中で、誕生日、クリスマス、七夕などの行事は、ケーキを食べたり、シチュエーションに応じた食事を提供したり、季節に応じた室内の装飾、昼食なども宅配で好きな物を注文するなどして、ささやかですが楽しんで頂きました。今後は、可能であれば野外活動が出来ればと考えております。

2、事業所運営

職員 25 年度 常勤 1 名(週 5 日) 常勤 1 名(週 1 日) 支援員パート 4 名
調理員 0 名 清掃員 1 名

会議

奏(スタッフ)会議 月に 1 回行っています。情報の共有、問題点などの相談や報告を行い、話し合うスタイルをとっています。

夜間を含む人員体制

職員体制として女性のスタッフのみの配置は、昨年同様変わらず 21:00 迄は、遅番含め二人体制での支援となっています。夜勤スタッフに欠員が出た際は、応援若しくは、常勤スタッフが対応して参りました。グループホーム間で助け合えるよう努め、情報なども共有しています。夜間、緊急を要する場合などは、管理者に連絡する体制をとっています。

研修体制

今年度は、研修に参加できませんでした。次年度は、積極的に参加したいと思います。

地域生活

今年度から BCP の体制も鑑み、地域連携会議へ参加し、町内活動にも組長として積極的に 1 年間取り組みました。地域連携に関しては、これからも継続して取り組んで

いきます。

3、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

引き続き、スタッフも健康に気を付けて万全の体制を整え、メンバーの皆さんが安心して過ごせる環境を整えます。事故や怪我などにも気をつけ、安全な暮らしが出来るよう、気を配るよう心掛けていきます。健康面でのサポートも、消毒、マスク、手洗い等も引き続き行い感染防止にも努めて参ります。

4、自己決定に基づく将来に向けての支援

ずっと奏で過ごして頂けるよう、先ずは健康でいられることだと思う 1 年でした。まだまだ若い皆さんですが、健康でいて頂けることが 1 番大事なことであり、日々の生活での食事の提供と体重の管理、勿論バイタルチェックも含め、サポートできればと思います。これからも将来に向けて、様々な問題があると思いますが、心穏やかに、居心地の良い居住空間を提供出来るよう目指して行きます。